



同窓会だより

第 29 回
平成 30 年 3 月
発行 呉高専同窓会

呉高専の新たな取り組み

インキュベーションワーク

インキュベーション・デザイン室長 林 和彦

呉高専では平成27年度より全学科全学年の学生がチームで課題に取り組む授業「インキュベーションワーク」に取り組んでいます。教員の研究分野に関連するものなど教員側から提示する“教員テーマ”と、学生が自主的にやりたいことをテーマとして掲げる“自主テーマ”とがあり、現在は約80のテーマがあります。内容はまちづくり、ものづくり、小中学生向けの理科教育支援、行政とのコラボレーションなど多岐に渡っており、地域・社会との連携を通じて学生たちは着実に成長しつつあります。

昨年10月には呉市の入船山記念館開館50周年記念事業を学生主体で企画・運営し、市内外から2日間で2700人を超える来場者がありました。当日はインキュベーションワークのテーマを中心に17のブースが出展し、イベントを盛り上げました。これだけの規模のイベントを企画から運営まで学生主体で開催できたという事実に、学生たちの成長を実感した2日間でした。

呉高専の新たな取り組みはようやく軌道に乗り始めたところです。今後さらなる発展のために、社会で活躍される多くの同窓生の方々から学生の活動に対するご支援をお願いする次第です。



専攻科の改組について

専攻科長 中迫正一（機械工学科19期）

卒業生の皆様におかれましては、各界で益々ご活躍のことと存じます。平成29年度より専攻科長を拝命いたしましたので、専攻科の新しい取り組みについて紹介させていただきます。

本校専攻科は、従来の高専教育の上さらに2年間の高度な専門教育をすることを目的として、平成10年4月に「機械電気工学専攻(定員8名)」および「建設工学専攻(定員8名)」の2専攻が設置されました。平成29年3月までに1～18期生の合計389名が修了し、学士(工学)の学位を得て、大学院、民間企業等へ進んでいます。

平成28年度に従来の2専攻から、複合型の1専攻「プロジェクトデザイン工学専攻」に改組しました。併せて定員も本科定員の25%(40名)と大幅に増やし、本科から専攻科まで連続した7年一貫教育の体制を強化しています。また、これまで学位を取得するためには大学改革支援・学位授与機構による小論文試験に合格する必要がありましたが、現在では、特例適用専攻科に認定され、試験を受けることなく学位を取得できるようになっています。

特徴的な教育内容として、約3ヶ月に及ぶ長期インターンシップ、ピデオ会議システムと電子黒板を活用して他高専の学生と一緒に受講する6高専連携授業を実施しています。また、課題の発見から企画・設計・製作まで一連のプロジェクトをデザインする能力を養うことを目的とし、課題を明確にした上でアイデアを出し合い、それを具現化するプロジェクトデザイン工学演習に取り組んでいます。

本年3月には、いよいよ新専攻の1期生が修了します。新専攻の教育目的である、学修してきた専門分野を深めながら、複合的な素養を身に付け、多様性を涵養し、プロジェクトをデザインできる人材として活躍してくれることを期待しています。

最後になりましたが、同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

同窓会副会長 就任あいさつ

副会長

坂口 智三

(機械工学科28期)

同窓生のみなさま。この度、副会長に就任させて頂く事となりました。機械工学科28期坂口です。私は、1996年に呉高専を卒業した後、測定器メーカーの(株)ミットヨに就職し、マイクロメータの設計業務に従事しております。新たな新商品開発に向け、設計リーダーとしてお客様のニーズに応える製品となる様に開発に関わるメンバーと共に日々奮闘する毎日です。

早いもので学校を卒業して昨年20年が経過しました。私は、幸いにも折々に学校とは関わらせて頂いており、2005年と2008年に機械工学科OBとして学生に向けたガイダンスを行わせて頂きました。又、2013年からは学生時代に打ち込んだサッカーへの

恩返しとしてサッカー部OB会世話人としております。現在の学校の状況も新聞や学校に訪れた際に多方面に色々な活動をされ、活躍されていることを見聞きするにつけ、学校から飛び出て対外的にも発信している学生を誇らしく思う事も多々あります。学生時代お世話になった学校への恩返しではありませんが、少しでも学校(学生)と同窓生の皆様を繋ぐ役目として、精一杯頑張ろうと思っております。今後とも宜しくお願い致します。

毎年1月2日にサッカー部はOB・OG会を行っています。写真は2017年の会の写真です(前列左端が私です)。体は昔の様に動きませんが年齢の垣根を越えて一緒にボールを追いかけて楽しんでます。



副会長

中山 智司

(電気工学科16期)

同窓生の皆様こんにちは。この度、副会長に就任致しました中山です。

呉高専を思う時、現在もエンジニアリング部門から高専に期待されている優位性は変わらず、かつて不足していた世間一般での認知度は、NHKによるロボコン大会放映の効果もあって向上していると感じています。また、現在も、モノづくりに関心を持つ中学生から見て母校が入学し

たい学校としてあり続けていることは嬉しく思っています。私は、川崎市と呉市の職場で製品開発、設計を30年行い、現在は品質管理部門に所属して日本のモノづくりに携わり続けています。出身は福山市で、入学した際には卒業後呉市に住むようになると思っておりましたが、同窓会便りにご挨拶をさせていただく身になるとは、全く想像しておりましたが、せつかくのご縁です。微力ながら同窓生どうしの繋がりがや、在校生の応援に努めてまいりますので宜しくお願い致します。

校長あいさつ

順調に歩み続ける 新生呉高専

校長 森野数博



同窓会のみなさま、いかがお過ごしでしょうか。昨年の同窓会だよりで「遅しく歩み始めた、新生呉高専」とのタイトルで現状を紹介させていただきましたが、おかげさまで、その後も順調に歩みを続けております。

一昨年度から本科の学生に対して行っている「インキュベーションワーク」は着実に軌道に乗ってきており、今年度のテーマ数は70。そのうち、学生による自主テーマが30と増えてきました。活動もますます活発になり、本校のHPでほぼ毎日更新されている「呉高専日誌」の「教育・研究」部門から「インキュベーションワーク」を分離独立させました。12月に行った「びっくりワクワクサイエンスショー」での出し物も多彩になり、今年度は配布し

たパンフレットが775部。お子さん連れのご家族で学内は活況を呈しました。昨年度改組した専攻科の目玉である「プロジェクトデザイン工学演習」は異分野が協働して地域の課題解決をめざしたものの。初回ということもあり、試行錯誤を重ねつつも成果物として完成。取り上げたテーマは、「椿で醸成する“大和の酒”」「土砂災害に強い呉市を目指して」「観光資源である呉の屋台に新たな提言」。いずれも地域に密着した興味をそそられる内容であり、関係各方面から注目されています。

あれやこれやで確実に全体の底上げは進んでおり、目安である「教育改革の成果」は昨年度の27件に対し、今年度は12月末ですでに29件。この状況は「新聞・TV等」に載った呉高専」と併せ本校HPでご覧いただけますが、今年度から「呉高専の特色」や「インキュベーションワーク」「高専祭2017」のパナーも設けました。併せて学生によるネットラジオ「ちょっときいて呉高専」も立ち上がりましたので、お聞きいただければ幸いです。

これからも同窓会のみなさまに誇らしく思っていただけの日本一の高専をめざし、全学あげて取り組む所存です。引き続きご支援のほど、お願いいたします。

呉高専同窓会名簿の更新と発刊について

平成31年1月、同窓会名簿(冊子版)の改訂版を発刊する運びとなりましたことをご報告致します。なお、会員の皆様の住所変更等の動向調査は、本同窓会が個人情報管理業務を委託している「株式会社サラト」が実施致します。今後、動向調査等の葉書がお手元に届くかと存じますが、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。また、動向調査の詳細は、呉高専ホームページの同窓会ページにてご報告する予定としております。ご確認頂けます様、重ねてお願い申し上げます。

同窓会名簿は、完全予約販売となっております。前回、平成26年2月に、約10年ぶりの同窓会名簿(冊子版)を発刊致しま

したが、予約会員様への納品後、遠方のOB・OGの方から名簿販売に関するお問い合わせを多数頂きました。同窓会事務局には少量の在庫がございますが、身元が確認できない方への販売は行えないこととしている為、全てのケースでお断りさせて頂く形となってしまいました。従って、同窓会名簿をご希望されます方は、お見逃しの無き様、宜しく願い致します。

名簿発行日:平成31年1月下旬(予定)
体裁:A4版(約260頁) 名簿価格:4,150円

学科だより

人文社会系分野の近況

人文社会系分野代表 木原滋哉

卒業生のみなさまにおかれましては、各分野において益々ご活躍のこととも喜び申し上げます。一般科目が、自然科学系分野と人文社会系分野に形式的に分かれてからしばらくたちますが、人文社会系分野の教員定員は現在、国語科2名(外村先生、上芝先生)、英語科5名(上杉先生、蒲地先生、冨村先生、大森先生)、保健体育科2名(佐賀野先生、丸山先生)、社会科2名(宇根先生、木原)です。今年度は、人事交流として1年間の予定で和歌山高専から平山先生(英語)が来られています。英語科は1名欠員になっていますので、来年度から柿元麻理恵先生が赴任されることが決まっています。

どの科目も数年単位で教員メンバーがかなり変化していますが、呉高専勤務が長い先生もおられます。赤池先生(数学)、佐賀野先生(体育)、木原(社会)、そして宇根先生でしょうか。社会科は、岩根先生が退職されるという変化はありましたが、少なくとも二十数年間は同じ教員で担当してきました。しかし今年度、最も長くお勤めの宇根先生が定年を迎えられます。さらに現在、教育カリキュラムの大幅な変更が検討されており、人文社会系分野の教育内容も大きく変化すると思われます。

人文社会系分野の教育内容を時代の要請に応えたものにするために、また卒業生のみなさまに胸を張って誇れる内容にするためにも、しっかりと準備していきたいと考えています。

自然科学系分野の近況

自然科学系分野代表 **森 貞雄**

卒業生の皆様におかれましては各界でご活躍のことと存じます。

本年度は自然科学系分野の近況にかえて、自然科学系教養科目が「何の役に立つ」のかについて考えてみたいと思います。

科目としては数学と物理がありますが、両科目とも専門科目とは密接に結びついています。先の問かけに対する一番直接的な回答は専門科目で必要になるから、ではないでしょうか。確かに必要ではあるのですが、その後はどうでしょう。私自身の企業での経験では学校で習ったことはほとんど「直接」は仕事に役立ちません。

習ったことで役に立ったのは「三角関数」他、数えるほどでした。その後、呉高専にきて、多くのことが役立ったのですがそれは教員という職業だからです。ずっと企業に

いたなら学校で習ったことは仕事に対して直接の役には立たなかったと思います。しかし、習ったことが無駄であったとは考えていません。世の中に出てから必要とされる能力は（専門的能力に限っても）変化します。

今役に立つ専門能力が20年後、30年後に同じように役立つとは思えません。常に必要とされる新しい能力を身につけつづける必要があります。

「いろいろなことの基本となる基礎教養科目を理解した経験がある。」→「新しいことを自分で学習していける。」＝「世の中の変化に対応できる」と考えれば数学や物理を勉強する意義もあるのではないのでしょうか。

高専の教員に「先生はなぜ勉強（研究）するの」と聞くとどんな答えが返ってくるのでしょうかね。案外「好きだからやっているだけ」だったりするかもしれません。

最後になりましたが同窓会会員の皆様方のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

機械工学科の近況

機械工学分野代表 **尾川 茂**

機械工学科の卒業生の皆様におかれましては、各界でご活躍のことと存じます。平素より学生の就職・インターンシップ等で多大な協力を賜り、誠にありがとうございます。

現在の機械工学科は、教授6名、准教授4名、助教(女性)1名の11名体制で教育・研究・地域貢献にあたっております。

学生の進路については、本科卒業予定45名のうち、就職が25名(56%)、進学が20名(44%)となっております。特筆すべきことは、進学が40%超で例年の30%台に比べ大幅に増えたことです。これは専攻科が従来の2専攻から複合型の1専攻「プロジェクトデザイン工学専攻」に改組された効果と思われる。進学先は、本校専攻科が13名、他大学3年次編入生が7名(九大・広大・岡大・大阪府大・信州大・電通大・豊橋技科大の7大学)となっております。一方、就職先は自動車4名(マツダ2名、本田、スバル)と人気が高く、JR・中国電力・旭化成・ファナックの各社に2名ずつと、昨年と同様一つの企業に複数名の内定者が目立つ傾向が続いています。留学生1名は帰国して就職予定です。

今年度はロボコン部が頑張りました。高専ロボコン中国地区大会で、優勝と準優勝の両方を獲得しました。本校の優勝は1994年に遡り実に23年ぶりの優勝です。準優勝も同時獲得は本校初の快挙でした。そして第30回全国高専ロボコン大会に出場しました。1回戦で福島高専に勝ち、2回戦での強豪奈良高専との熱戦の様子は、NHK総合テレビで全国放映され呉高専の存在感をアピールしました。今回は全国大会ベスト16でしたが、来年度は全国制覇を目指してロボコン部員も熱くなっています。写真は中国地区優勝と準優勝して喜び一杯のロボコン部員です。

最後になりましたが、同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



電気情報工学科の近況

電気情報工学分野 **黒木 太司**
(電気工学科12期)

E科卒業生の皆様におかれましては、益々にご清栄のことと存じます。今回は本学科における研究成果の近況に関してご報告致します。

今年度も多くの地域貢献研究が行われました。呉自社商品開発協議会様との協働により、分野代表の田中誠先生(E11期)は高齢者見守り支援システムや害獣対策通報器などを開発されました。協働研究センター長兼務の山脇正雄先生は全国から多くの共同研究を受入れ、炭素繊維材用3Dプリンタ開発に関する研究で新聞紙掲載など顕著な活躍をされています。藤井敏則先生は地元企業様と連携し、高専における高専生のためのeラーニング教材を開発、本校を皮切りに全国展開を計画されています。横沼実雄先生の超音波スピーカーによる視覚障害者歩行支援機器はJSTの補助事業にも採択され、種々のフルドデータをもとに実用化を目指されています。

この他にも横瀬義雄先生のソフトコンピューティング、井上浩孝先生のニューラルネット、板東能生先生の窒素計測技術、

平野旭先生のバイオアッセイ、外谷昭洋先生の乳がん検査装置などの基礎および応用研究が精力的に行われ、その結果として

多くの学生が学会で成果発表、また学会賞などを受けております。卒業生の皆様におかれましては、共同研究や受託研究、あるいは技術相談などのご要望がありましたら、お気軽にお申し付け頂ければ幸いです。最後になりましたが、皆様のみまますのご活躍を衷心よりお祈り申し上げます。



熊原君KJMW2017で最優秀論文賞



迫川君TJMW2017で最優秀発表賞

環境都市工学科の近況

環境都市工学分野代表 **森脇 武夫**

土木工学科および環境都市工学科の卒業生の皆様におかれましては、各界で益々ご活躍のことと存じます。また、日頃から本校の教育・研究に多大なご協力を賜り、誠にありがとうございます。

平成29年度の環境都市工学科は、4月から新しく神田佑亮先生(公共政策、土木・交通計画学)が教授として着任される一方、加納誠二先生が高専機構本部へ出向され、教授3名、准教授6名、助教2名の11名体制でスタートしましたが、7月から山岡俊一先生が教授に昇任されました。なお、堀口至先生は米国カリフォルニア大学バークレー校での在外研究から復帰され、代わって三村陽一先生がオーストラリアのカーティン大学に在外研究で1年間留学されています。また、今年度で森脇は定年退職となりますが、平成30年4月からは重松尚久先生が教授に、谷川大輔先生が准教授に昇任されます。

環境都市工学科は、今年度からコース制を廃止し、全国高専の土木系モデルコアカリキュラムと整合したカリキュラムで教育を行っています。学生たちは、土木学会中国支部研究発表会で若手優秀発表者賞を3名が受賞、第1回全国高専「発酵を科学する」アイデア

コンテストで優秀賞を受賞、第4回ESD日本ユースコンファレンスで日中韓大学生交流プログラムに採択(全国の大学・高専の中で10名)、第14回全国高専デザコンの構造デザイン部門で出場56チーム中5位になるなど、様々なところで大活躍してくれました。

学生の進路につきましては、本科卒業予定者49名のうち、就職が34名、進学が15名で、ここ最近の傾向と比べて進学がやや増えました。就職先は、呉市や広島市などの公務員4名、中国電力やJR東海などの公益企業15名、竹中土木や五洋建設などの建設系企業7名、NEXCOエンジニアリング中国などの建設コンサルタント4名、富士通や旭化成などその他の企業や団体4名で、ほぼ例年通りの傾向です。進学先は、九州大学1名、熊本大学1名、長岡技術科学大学2名、本校専攻科11名です。また、専攻科修了予定者は6名で、進路は広島県2名、呉市1名、大成建設1名、北海道大学大学院1名、名古屋大学大学院1名です。昨年度から民間の選考開始が6月1日と早くなるとともに、売り手市場がより一層顕著になり、民間志望者は全員夏過ぎには内定をいただきました。来年度も今年度と同様な日程で就職活動を行いますので、声を掛けていただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、同窓生の皆様の益々のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

建築学科の近況

建築学分野代表 **間瀬 実郎**

建築学科同窓生の皆様におかれましては、大いにご健勝のことと存じます。引き続き建築学分野代表を務めさせていただき間瀬です。今年度で7年目となりますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

学生の近況としては、今年度と昨年度の本科1年建築学科はクラス内の女子数が半分以上になっております。これらのクラス内の雰囲気はやはり明るく、活気があるのが印象的です。建築学科はもともと女子が多い学科でしたが、理系女子ブームの追い風もあってか、社会で活躍する女性のための学校としても認知されつつあるように思います。

教員の動きとしては、平成29年4月に建築学科に新しく宮崎崇文先生が助教として着任しました。宮崎先生は福祉計画が専門で、高齢化社会に向けて建築が寄与できる手法を研究しております。これまでこのような研究を行う教員は初めてであり、しかも大学院を出た

新卒の先生が着任するのは久しぶりで、学科内も活気づいております。

一方、泉洋輔先生は平成30年3月をもって定年退職となります。長年にわたり多くの学生が構造力学の分野でお世話になりました。また西宮善幸先生も嘱託教員の任期を終えることとなります。設計製図の牽引役がいなくなることは大変残念に思います。

平成30年3月上旬には、日本建築学会中国支部研究報告会を呉高専にて開催する予定です。呉高専にて建築学会「支部研」を開催するのは約20年ぶりのことで、現在、仁保裕先生がリーダーとなって準備を進めております。

本校の特徴的な授業である「インキュベーションワーク」では、全教員が個々にオリジナルのテーマを掲げ、学生は学年、学科を問わず好きなテーマに所属して取り組んでおります。光井周平先生が担当した呉市両城にある空き家再生プロジェクト「石段の家」も完成し、新聞やテレビでも紹介されました。詳しくは本校のホームページを御覧ください。

今後も皆様のごさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げ、ご支援をお願い申し上げます。

定年退職に当たって

呉高専の思い出



人文社会系分野 教授

宇根 俊範



呉高専に赴任したのは昭和59年4月のことです。早いものであれから34年、とうとう退職の年を迎えることとなりました。赴任当初はこんなに長く呉高専で働くとは思っていませんでしたが、結局定年まで勤めることとなり、私が経験した「職場」は呉高専だけとなりました。

振り返ってみれば、いろいろな場面が思い出されます。最初にクラス担任をしたのは、赴任して2年目、受け持ちクラスは機械工学科1年で、現在の機械工学科の野村先生が在籍されておられました。男子学生ばかりのクラスで、4年生のときには研修旅行にも一緒に行かせていただきました。おそらく周囲からは奇妙な集団に見えたでしょうが、スーツ姿で富士急ハイランドのジェットコースターに乗ったり、自由時間にグループで上野の博物館に行ったことなどが懐かしく思い出されます。赴任当初は社会科の岩根先生のお勧めで教員のテニス同好会に入れていただき、テニス三昧の毎日でした。

メンバーの皆さんはとても上手で、到底勝てる相手ではなかったのですが、土曜日(当時は半ドンでした)の午後ともなれば一目散にテニスコートに駆けていき、夕方暗くなるまでテニスに興じていました。吹奏楽部の顧問となったのもこのころです。最初は部員13名で、いつ廃部になってもおかしくない状態でしたが、あつという間に50名を超える大所帯のクラブになりました。定期演奏会や西中国地区高専音楽祭、高専祭の野外演奏会等で数多くの曲を演奏しましたが当時の演奏曲を他の学校が演奏していると、当時の部員の演奏する姿が思い浮かんでくる経験は何度もしています。他にも高校野球の応援や高専祭の市内パレードなども楽しい思い出です。

平成17年から8年間務めた学生主事の期間は最も充実した期間でした。文化行事やステップキャンパス、学生会のセミナー、後援会の学校行事の積極的参加(高専祭・駅伝大会における支援やクラブ予算のプレゼン審査等)…と数々の新しいことに挑戦してみました。中国地区の高専大会やロボコンの主管校も経験しました。大変でしたが無事大会を終えた時の安堵感は格別でした。

34年も勤めると、職場に飽きてしまいそうですが、そのようなことは一度もありませんでした。何よりも学生たちと過ごす時間が楽しいものであったからだと思います。その点で学生の皆さんには心より感謝しています。皆さんの笑顔が私にエネルギーを与えてくれました。幸いにも引き続き2年間雇用延長で呉高専にいらさせていただきます。同窓会の皆さん、呉高専に立ち寄ることがありましたら、是非私の所に足を運んでください。

環境適合 (DfE) の 素養を育む教育を目指して

機械工学分野 教授

山田 宏



N T T 先端技術総合研究所で30年間研究職を勤めた後、持続発展教育 (E S D) を本校で展開する為に、「総合分野 (内部組織)」へ赴任しました。対外的には、公称組織「自然科学系分野」を経て「機械工学分野」に所属して来ました。

本校での「全科目E S D」は、平成26年3月の外部評価で「優れた取組」として高評価を得たものの、その礎と成る高度化教育は不十分でした。そこで、高エネ研 (K E K) や地域企業と連携した「先端工学特講」や「本校独自の産学連携教育」等を創設すると共に、全学科の5年生に「技術者倫理」を通して、D f E の技量を教授して来た次第です。

小職は宮城高専出身で、自身の専攻専門を、材料工学のメッカで在った地元の東北大金研で学べると言う、恵まれた高度化教育を享受出来たことから、本校学生にも、当該教育、更にはD f E の素養を育て貰う為、前記創設等を推進して来ました。将来、本校学生が、これらの教育を活かして、社会に寄与して行くことを期待しています。

定年退職に あたって

環境都市工学分野 教授

森脇 武夫



呉高専に着任してから15年が経ち、今年度で定年を迎えることになりました。いずれ定年を迎えることは分かっていたのですが、実際に定年を迎えると、「ついか」や「やっとか」などが入り交じった複雑な心境です。

着任した平成15年度は、今と違って新任教員 (当時は教官と称していました) は役職が免除されていましたので、研究の始動に専念することができました。卒研究生として配属された松井勇樹君と二人で広島大学から譲り受けた実験器具やナフコで購入した部品などを使って手作りで応力制御型の三軸試験機を作り、降雨に伴って間隙水圧が上昇し、有効応力が変化する時のまき土の強度特性に関する実験を開始しました。この実験の成果は現在も行っている豪雨時のパイプフローによる斜面崩壊メカニズムの研究に引き継がれています。

2年目から環境都市工学科4年生のクラス担任をすることになりました。とても元気のいいクラスで、特別見学旅行でハワイに連れて行ったときには、他の先生から予定通り帰れるかを心配していただきましたが、大きな問題を起こすことなく無事帰ることができ、安堵したことを思い出します。

次の年は持ち上がりで5年生のクラス担任をするものと思っておりましたが、当時の教務主事の福原先生から主事補をして欲しいとの話がありました。予定と違うのでお断りしようと思いましたが、学科主任も了解済みだということなので、平成17年度から4年間教務主事補をすることになりました。主事補の時は入学志願者増加対策や入学者選抜方法の検討など、比較的自由に仕事をさせていただきました。

主事補4年目の年に当時の遠藤校長から教務主事をして欲しいとの話がありました。当時の教務主事は教務だけでなく、地域貢献や外部資金獲得、共同研究など非常に多くの業務を抱えておられました。呉高専に来て6年しか経っていない私にはとても引き受けられないと言ったところ、副校長制度を導入し、他の業務は副校長にやってもらうので教務だけに専念すれば良いということなので、平成21年度から引き受けすることにしました。その代わり専攻科長も兼務することになり、結局仕事が増えたか減ったかは微妙なところでした。教務主事は長くても2期4年で終わるつもりでしたが、新しく着任された森野校長に口説き落とされ、6年間続けることになりました。この間、様々なことをやらせていただきましたが、中でもカリキュラム改訂を行い、4学科横断的な科目として技術者入門を導入し、多くの先生方の尽力によってインキュベーションワークに発展し、呉高専を代表する科目になったことは大変喜ばしいことです。

平成27年度からは環境都市工学分野の分野代表を務めましたが、環境の先生方は皆さん大変優秀でまとまりも良く、何事にも快く協力していただきましたので、楽に仕事をさせていただきました。今後も活躍していただけると確信していますので、安心して退職することができます。

呉高専の15年間で一番印象に残ることと言えば、やはり卒業研究での学生との出会いです。15年間で卒研究生53名、専攻科生14名を指導することができ、それぞれ印象に残る思い出があります。一人一人の思い出を書くスペースがありませんが、それぞれが貴重な宝物です。良い学生に巡り合い、楽しい時間を過ごせたことは教員冥利につきます。

最後になりましたが、呉高専の同窓会の皆様には色々ところで大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。同窓会の皆様のご健勝とご活躍ならびに呉高専の益々の発展を祈念いたします。

定年退職に あたって

建築学分野 教授

泉 洋輔



2009年4月より9年間勤務しました呉高専を定年退職することになりました。

私にとっては初めての教員生活であり、また単身赴任生活でもありました。もともと人前で話すことを苦手としている

性格であるため、それで教員が務まるのかと家内にも言われていました。確かに、授業をうまく進められるのか、板書の字の大きさはどの程度なのか、図はうまくかけるのかなど、未だに不安な気持ちを抱えているように感じます。9年間を振り返れば、建築構造に関してこれまでで一番勉強した期間だったと思います。長年そのうち取り組もうと保留していた課題のいくつかが解決しました。また、それらを通じて新たなテーマも見つかりました。解決したときの達成感を味わうことはなかなか痛快なものです。退職後もこの感動をいくつか味わえるようにしたいと思っています。

呉高専建築学科卒業生の皆さんの今後のご健闘・ご活躍をお祈りいたします。

卒業生の近況

建築学科 卒業生の近況



今だからこそ感じる 建築のおもしろさ

建築学科35期

光井 周平

呉高専を卒業して早いもので15年が経ちました。広島大学に編入学した後に教員として母校に着任したのが2011年。それからもう7年が過ぎようとしています。3年前から始まった「インキュベーションワーク」で学生とともに取り組んでいる呉市両城の空き家再生事業「石段の家プロジェクト」の総仕上げとして、今年度は空き家の改修作業に挑戦しました。

高専在学中はたくさんの設計課題に取り組んで、同級生の出来栄と比較して自らの才能のなさを嘆いていましたが、そんな私が教員として空き家リノベーションに

取り組むとは予想だにしませんでした。地元の建築士や職人の方々に助けられながら何とか予定していた作業を終えることができましたが、やりきったときの学生たちの笑顔は忘れられません。建築学科だけでなく機械・電気・環境の学生も協力して取り組んだプロジェクトを通じて、教員として大切なことを学んだと同時に、建築のおもしろさを改めて実感した1年でした。

私自身は構造系の教員ですが、今回の経験も含めて学生たちに建築のおもしろさ、建築を学ぶ楽しさを伝えていきたいと思っています。



機械工学科 卒業生の近況



機械工学科32期

楠 弘隆

1999年に呉高専を卒業し、2年間の大学生活を経てマツダ株式会社に入社しました。

呉高専では、5年間自動車部で過ごすほどクルマ好きだった自分にとっては最高の職に就けたといつも思っています。

卒業後の一番のトピックスは、10年程前から学生時代から興味があったダートトライアルというモータースポーツを始めた事です。クルマを未舗装路で思う存分

操る楽しさと、共通の趣味を通じてできた人との繋がりや生まれる体験が自分の成長には欠かせない存在になっています。そんな中で実際の仕事において、もっとたくさんの人に気軽にモータースポーツを楽しんでもらいたいという思いから、デミオ15MBというモータースポーツ向け車両の企画・開発にも携われました。

このように公私とも非常に充実している背景には、マツダ社内で呉高専OB間の交流が盛んであることが大きな要因の一つです。年に一度行われる親睦会等を通じ交流が生まれ、仕事やプライベートでOBの方々から多くのサポートを頂いています。

この恵まれた環境に感謝しながら、より一層「クルマのある生活をとおして、お客様に笑顔をお届ける事」に貢献していきたいと思っています。

最後になりましたが、同窓会の皆様のみますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

学生の同窓会表彰について



平成29年1月から平成29年12月に

以下の成績を収めた5名を表彰しました。(平成29年12月末現在)

- 平成28年度独立行政法人国立高等専門学校機構学生表彰
 - ・日本高専学会研究奨励賞(最優秀賞),平成28年度独立行政法人国立高等専門学校機構学生表彰(理事長賞)／賞状+副賞(3万円)
 - 惣中英章君(専攻科2年)

- 第1回「発酵を科学する」アイデア・コンテスト
 - ・優秀賞 賞状+副賞(1万円)
 - 糸入祐也君(環境4年)、井原奏太君(環境4年)、加藤梨乃君(環境4年)、元川大輔君(環境4年)

今後も学生の更なる活躍を期待しています。

学生の課外活動状況

体育系

第53回中国地区高等専門学校体育大会成績(団体)
7月7日(金)~7月9日(日) 会場:米子・松江

種目	順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
陸上競技男子		米子	徳山	広島	呉	宇部	松江	大島	津山
陸上競技女子		米子	徳山	広島	大島	宇部	津山	松江	呉
バレーボール男子		松江	徳山	津山	宇部				
バレーボール女子		松江	呉	広島					
柔道		大島	津山	松江					
硬式野球		宇部	米子	松江	徳山				
テニス		徳山	米子	呉	津山				
バスケットボール男子		松江	宇部	呉					
バスケットボール女子		松江	宇部	徳山					
剣道男子		松江	呉	津山	広島	徳山	大島	米子	宇部
剣道女子		松江	米子	宇部					
サッカー	A	呉	徳山						
	B	宇部	米子						
バドミントン男子		米子	津山	徳山	松江				
バドミントン女子		徳山	米子	津山	松江				
ソフトテニス		津山	徳山	呉					
卓球男子		広島	徳山	宇部	米子				
卓球女子		広島	徳山	宇部	米子				
水泳		松江	米子	大島	徳山	呉	宇部	津山	広島
ハンドボール		徳山	米子	津山	松江				

注)太枠線は団体戦全国大会出場校
団体種目のない陸上競技、水泳競技については総合順位とする。

第99回全国高等学校野球選手権広島大会 7月9日(日)三原市民球場(1回戦)
呉高専 3-5 福山明王台高校(1回戦敗退)

第23回西日本地区高等専門学校空手道大会 7月8日(土)~9日(日) 会場:宇部高専
【男女】 団体形3位

第52回全国高等専門学校体育大会成績(団体) 8月18日(金)~8月31日(木) 主管:小山高専
サッカー 初戦敗退

第26回西日本地区高等専門学校アーチェリー競技会 8月24日(木)~8月25日(金)
会場:しあわせの村アーチェリー場(神戸市) 【男子】 団体 優勝

第53回中国地区高専体育大会冬季大会(ラグビー競技) 11月10日(金)~12日(日)
主管:米子高専(島根県立浜山公園球場) Aパート 1回戦敗退

文化系

全国高専 第28回プログラミングコンテスト 10月8日(日)~9日(月) 主管:大島高専
【競技部門】 1回戦敗退

高専ロボコン2017 中国地区大会 10月14日(土)~15日(日) 主管:徳山高専
Aチーム「猪鹿蝶(イノカチョウ)」優勝(全国大会出場)
Bチーム「sisters(シスターズ)」準優勝

第14回全国高専デザインコンペティション2017 in 清流の国さくら 12月2日(土)~3日(日) 主管:岐阜高専
【構造デザイン部門】「三本の矢」:5位
「再善線」:審査員特別賞

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2017 12月3日(日)
会場:有明コロシアム(東京:江東区) 「猪鹿蝶(イノカチョウ)」2回戦敗退

平成28年度卒業生/修了生の就職・進学先

卒業/修了数	就職先	進学先
38	株式会社 旭化成(3)、関西電力(1)、キヤノン(2)、ダイキン工業(1)、中国電力(1)、千代田化工建設(1)、テルタ工業(1)、東海旅客鉄道(2)、西日本旅客鉄道(1)、日本たばこ産業(1)、西工機(1)、パナソニック(1)、アライアンス(2)、機ヒロテック、フナツク、フジテック、本田技研工業(1)、マツダ(4)、三浦工業(1)、三菱重工業(2)、三菱電機(1)、ベルテック/サービス、リョービ	東京農工大学工学部、広島大学工学部、呉工業高等専門学校専攻科(5)
37	AJS(株)、JFEスチール(株)西日本製鉄所、JFEプラントエンジニアリング(2)、NTTフィールドテクノ、オートリブ(株)、朝キレックス、国際ソフトウェア(株)、朝シエス・ユアソーホーレーション、ジェイ・アール・シー特機(株)、神鋼テクノ(株)、ソニーエンジニアリング(株)、ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ(株)、中国電力(株)、朝テイスコ、東レ(株)、パナソニック(株)AVCネットワークス社(2)、パナソニック(株)アライアンス社、富士通コンピュータテクノロジー(2)、機マツダE&T、三菱電機システムサービス(株)、機メンバース、ヤマハ(株)	筑波大学情報学群、電気通信大学情報理工学部(2)、横浜国立大学理工学部、信州大学工学部、広島大学工学部、九州工業大学、九州大学経済学部、呉工業高等専門学校専攻科(3)
39	機NIPPO(2)、NTTインフラテクノ、岩谷瓦斯(株)、大阪ガス(株)、川田建設(株)、国土交通省中国地方整備局(2)、五洋建設(3)、ショーボンド建設(株)、水ing(株)、大成建設(株)、中国電力(株)、中部電力(株)、東海旅客鉄道(2)、東京ガス(株)、東京電力(株)、電源開発(株)、西日本旅客鉄道(株)、西日本高速道路エンジニアリング中国(株)、西日本高速道路メンテナンス中国(株)、広島市役所(2)、富士通(株)、機レールテック	長岡技術科学大学学生物機能工学課程、呉工業高等専門学校専攻科(8)
36	機NHKメディアテクノロジー(株)、機アルモ設計(株)、機エネ・グリーン、大阪ガス(株)、機大林組、鹿島建設(株)、関西電力(株)、大成建設(株)、独立行政法人国立印刷局、坂町建設(株)、スウェーデンハウス(株)、住友林業(株)、機大建設(株)、機竹中工務店、中電工業(株)、機特設計(株)、東海旅客鉄道(株)、東京ガス(株)、東京都庁、戸田建設(株)、西日本高速道路ファシリティーズ(株)、機フジタ、三菱地所コミュニティ(株)、ヤマハホールディングス(株)	横浜国立大学理工学部、信州大学工学部、大阪大学工学部、広島大学工学部(2)、熊本大学工学部、京都府立大学生命環境学部、呉工業高等専門学校専攻科(4)、青山ファッションカレッジ
14	ANAラインメンテナンスシステムズ(株)、機テイスコ(2)、日本精工(株)、マツダ(株)、機マツダE&T、機レールテック、湧永製薬(株)	豊橋技術科学大学大学院電気・電子情報工学専攻、長崎大学大学院工学研究科、京都工芸繊維大学大学院先端ファイブ工科学専攻、兵庫県立大学大学院シミュレーション学専攻科(2)
11	JFEシビル(株)、機アルモ設計(株)、機クオリア設計(株)、呉市役所(2)、大東建設(株)、三菱地所コミュニティ(株)、機横河ブリッジ	長岡技術科学大学大学院技術科学イノベーション専攻、広島大学大学院工学研究科、山口大学大学院創成科学研究科

平成29年度卒業生/修了生(予定)の就職・進学先

卒業/修了数	就職先	進学先
45	JFEスチール(株)西日本製鉄所、機NAITO、機SUBARU、旭化成(2)、大阪ガス(株)、キヤノン(2)、ジャパンマリンコイテッド機呉事業所、ダイキン工業(株)、機タマテック、中国電力(株)、東海旅客鉄道(2)、トローエーテック(株)、西日本旅客鉄道(株)、日東工機尾道工場、機浜野製作所、日立建機(株)、フナツク(株)、本田技研工業(株)、マツダ(2)	電気通信大学情報理工学専攻、豊橋技術科学大学機械工学課程、信州大学工学部、信州大学理学部、広島大学工学部、九州大学工学部、大阪府立大学工学部、呉工業高等専門学校専攻科(13)
44	機HIIインフラ建設、JFEスチール(株)西日本製鉄所、JFEプラントエンジニアリング(2)、NECネットワークス(株)、石田エンジニアリング(株)、機エヌ・ティ・ティ エムイー、機エム・システム技研、王子マテリア(株)機工場、岡本電機(株)、オムロン(株)、キヤノン(株)、機シャープ(株)、機セゾン情報システムズ、ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ(株)、ダイキン工業(株)、中国電力(株)、日鉄住金パイプライン&エンジニアリング(株)、日本貨物鉄道(株)関西支社、パナソニックシステムネットワークス(株)システムソリューションズ(株)カンパニー、機ミツトヨ広島事業所	北海道大学工学部、横浜国立大学理工学部、豊橋技術科学大学情報・知能工学課程(2)、岡山大学工学部、広島工業大学工学部、呉工業高等専門学校専攻科(12)、沖浦ラフ&ピース専門学校
48	機JFE設計(株)、機HPIテック、旭化成(株)、エヌ・ティ・ティ・インフラテクノ(株)、大阪ガス(株)、関西電力(株)、川田建設(株)、呉市役所(2)、五洋建設(株)、ショーボンド建設(株)、機竹中土木、中国高圧コンクリート(株)、中国電力(株)、中部電力(株)、電源開発(株)、東海旅客鉄道(3)、東京ガス(株)、東京水道サービス(株)、東京電力ホールディングス(株)、西日本高速道路(株)、西日本高速道路エンジニアリング中国(株)、広島ガス(株)、広島県土木改良事業団体連合会、広島市役所(2)、富士通(株)、機横河ブリッジ	九州大学工学部、熊本大学工学部、呉工業高等専門学校専攻科(11)
42	機NTTファシリティーズ(株)中国、アズビル(株)、大阪ガス(株)、機沖本初建築設計事務所、機きんでん、機コマヒラ(2)、五洋建設(株)、山九(株)、三晃金属工業(株)、住友不動産(株)、ダイキンエアテック(株)、大和ハウス工業(株)、機竹中工務店、中国電力(株)、東京ガス(株)、機トニーコンサルティング、トランスコスモス(株)、西日本高速道路ファシリティーズ(株)、西日本旅客鉄道(株)、機松田平田設計、三井ホーム(株)、三菱地所コミュニティ(株)、三菱地所レジデンス(株)、ヤマハホールディングス(株)	千葉大学工学部(2)、横浜国立大学理工学部(3)、豊橋技術科学大学建築・都市システム学課程(2)、滋賀県立大学環境科学部、多摩美術大学美術学部、呉工業高等専門学校専攻科(7)
23	機NHKアイテック、旭化成(2)、大成建設(株)、気象庁、呉市役所、シャープ(株)、機西建設一級建築士事務所、西日本高速道路(株)、西日本旅客鉄道(株)、機乃村工務社、広島県庁(2)、マツダ(株)、機マツダE&T(2)、機ミットヨ広島事業所	北海道大学大学院工学部環境創成工学専攻、東京工業大学大学院都市環境学コース、長岡技術科学大学大学院機械創成工学専攻、名古屋大学大学院工学研究科土木工学専攻

呉高専教員 人事異動

退職 (平成29年3月31日)

山崎 勉 (電気情報) 定年退職
市崎 一章 (一般:人文社会系) 辞職 (松山大学教授)

異動(人事交流) (平成29年4月1日)

平山 規義 (一般:人文社会系) 和歌山高専より

採用 (平成29年4月1日)

神田 佑亮 (環境都市)
宮崎 崇文 (建築)

再雇用 (平成29年4月1日)

山崎 勉 (嘱託准教授)

採用 (平成29年9月25日)

谷村 仰仕 (特命准教授) (有期雇用職員)

寄付金の募集について

同窓会では、より活発な活動を行うため同窓生の皆様から広く寄付金を募っております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

口座番号 01310-1-2212
加入者 呉工業高等専門学校同窓会

ご注意

本同窓会が個人情報管理を委託しているのは「株式会社サラト」のみです。「株式会社サラト」以外から同窓会名簿購入等のダイレクトメールが届くことがあるかと思いますが、これは本同窓会とは全く関係ありませんのでご注意ください。

★同窓会ホームページ, メールアドレスのお知らせ

同窓会のホームページが呉高専ホームページ内にあります。ぜひご覧ください。
URL: <http://www.kure-nct.ac.jp/research/dosokai.html>

また、同窓会用メールアドレスは以下の通りです。住所変更の連絡などにご利用下さい。
アドレス: OBOG@kure-nct.ac.jp

*個人情報の取り扱いについて

本同窓会(個人情報管理委託先:株式会社サラト)で所有する会員の個人情報は、会員間の親睦以外に使用することはありません。